2014 年 2 月 24 日　「責任分担という福音」　石川祐司教会長

以下に、訓読のみ言を掲載いたします。

＜訓読のみ言＞
『天聖經』
第四篇 真の人間　　第二章 人間の責任分担と堕落
第一節 人間の成長と責任分担
責任分担が重要な理由
34 神様は、すべての生命の中心であると同時に、愛の中心です。もちろん生命も愛の中心であり、愛も生命の中心です。神様は人類が苦痛を受けていることを知りながらも、なぜ幸福な人類になるように導けなかったのでしょうか。少し考える人は、「何らかの絶対的な神様がいらっしゃるならば、どうして全世界の人類が歴史を通して時を問わず、受難の道を行かなければならず、理解できない道をさまよいながら、手探りして行かざるを得ない運命に置かれているのだろうか」と言うでしょう。このようなことを見るとき、愛の神様は存在しないと速断しやすいのです。
35 悲惨な復帰歴史は、神様御自身がいかなる権力をもってしてもどうにもできません。それは、人間の責任分担の五パーセントが残っているからです。神様がいくら涙を流しても、どうにもできません。この重大な基準は人間が立てなければならないのです。人間には責任があります。それを今まで人間は分かりませんでした。神様は全能なので、その神様がしようとさえすればできないことはないと考える信者が多くいますが、神様にもどうすることもできないことがあるのです。
37 人間の責任分担というこの明確な思想的根拠によって、蕩減復帰という最も嫌な、「怨恨」の術語が出てきました。その蕩減復帰路程は、神様も絶対に後援することができず、一人で行かなければならないのです。助けてあげれば蕩減になりません。なぜでしょうか。人間の責任分担という原則があるので、その原則において助けてあげるのは蕩減にならないのです。助けることができたのであれば、人間が堕落するときに神様が干渉して、堕落しないようにしたはずです。責任分担があるので助けられなかったというのです。
38 今まで神学者や霊界に通じる数多くの人々が、サタンがいることは分かりましたが、全知全能の神様のみ前に反対するサタンの活動を、なぜ防御することができなかったのかという問題は分らないのです。これは霊界に通じても、問題なのです。神側に行こうとすれば、いつでも必ずサタンが妨害するようになっています。一方ではなく、四方八方から反対するようになるのですが、なぜ神様がそれに干渉できず、制裁を加えられないのでしょうか。このような問題が今も謎です。霊界に通じても、これだけは分らないのです。
40 責任分担ということを知らなければ大変です。責任分担を中心として、ひっくり返すための蕩減路程を歩んでいるという事実を知らなければ、宗教世界の歴史が解けません。これ

が解けなければ、霊界に行ってもすべてが解けず、すべて残ってしまうというのです。解く道がありません。皆さんは責任分担という言葉を簡単に思うかもしれませんが、途方もない歴史的な福音なのです。